

# 論文内容要旨

論文題目

回復期リハビリテーション病棟における Interprofessional Work  
(IPW) による退院支援の質評価指標の開発

教育・研究領域：生涯生活支援看護学領域

氏名：大崎 瑞恵

## 【内容要旨】

回復期リハビリテーション病棟における Interprofessional Work による退院支援の質評価指標を開発することを目的に、デルファイ法による調査を行った。文献検討、専門職や退院した患者・家族への面接調査から、ドナベディアンモデルの評価枠組みに沿って質評価指標案を作成し、回復期リハビリテーション病棟に勤務する専門職を対象に指標項目の適切性、重要性、実施可能性を問う質問紙調査を行った。各指標項目への同意率と意見を確認し、最終的に、重要性への同意率が50%以上の構造指標23項目、過程指標44項目、成果指標17項目の質評価指標となった。

山形大学大学院医学系研究科長 殿

# 学位論文審査結果報告書

申請者氏名： 大崎 瑞恵

論文題名： 回復期リハビリテーション病棟における Interprofessional Work (IPW) による退院支援の質評価指標の開発

審査委員：主審査委員 古瀬 みどり



副審査委員 大竹 まり子



副審査委員 小林 淳子



審査終了日：令和2年12月18日

## 【 論 文 審 査 結 果 要 旨 】

退院支援の質を向上するためにはチームアプローチの充実と評価が必要であるが、多職種が共有できる包括的な評価方法は確立されていない。本研究は、回復期リハビリテーション病棟（以下、回復期リハ病棟）における Interprofessional Work（以下、IPW）による退院支援の質評価指標を開発することを目的とした。

デルファイ法による2回の調査を実施した。まずは、文献検討、回復期リハ病棟の専門職や退院した患者・家族への面接調査の結果から、ドナベディアンモデルの評価枠組みに沿って質評価指標案を作成した。回復期リハ病棟入院料1の施設基準を満たす病棟の専門職を対象に、指標項目の適切性、重要性、実施可能性を7段階で問う1回目の質問紙調査を行った。構造指標、過程指標、成果指標の各項目の適切性、重要性、実施可能性の7（とても適切である／とても重要である／必ず実施できる）と、6（かなり適切である／かなり重要である／かなり実施できる）の回答を同意とみなした同意率と自由記述を確認し、指標項目の修正・削除を行った。指標項目の同意率による採用基準は51%以上とした。2回目の調査は、1回目の質問紙調査に協力が得られた対象に、1回目の重要性の同意率と修正した質評価指標案を提示し、再度重要性について7段階で回答を求め、削除・修正した指標についてはその理由を提示し意見を求めた。また、現在の状況として構造・過程指標は実施状況を4段階で、成果指標は把握状況を2段階で回答を得た。同意率の採択基準ならびに1回目の調査結果等を考慮し、採択・削除の判断を慎重に行い、最終的に構造指標23項目、過程指標44項目、成果指標17項目の質評価指標となった。

本質評価指標は回復期リハ病棟のスタッフの合意形成により開発したものである。そのため多職種が共有でき、構造・過程・成果の3側面からIPWによる退院支援を評価し、課題や対策を検討することにつながる評価ツールとして新規性がある。2025年問題に向けた地域医療構想では、急性期からリハビリテーションや在宅復帰を目的とした回復期病棟への転換とケアの充実が必要であるとされている。本研究は、そうした社会的ニーズに合致したもので、実践現場における今後の活用が期待され、看護学の発展にも貢献できるものであることから、本論文は看護学博士論文に相応しいと判断した。